

## 井勝 久喜 持続可能な社会作りの指標



自由民主党が政権の座に返り咲き、安倍首相が「3本の矢」と表現している「大胆な金融政策」、「機動的な財政政策」、「民間投資を喚起する成長戦略」という3つの政策を打ち出しました。この原稿を書いている時点では、円安が進み、株価も上がり、景気が回復傾向にあるようにマスコミが騒いでいますが、果たして実体経済が本当に回復しているのでしょうか。現政権の政策目標の一つに2%のインフレ目標が掲げられています。言葉では簡単に2%とっていますが、年率2%の経済成長を続けると、経済規模が35年で現在の2倍になるということを意味しています。資源、エネルギー、地球環境問題という制約の中で、本当にそのような経済成長が可能なのでしょうか。たとえ一時的には可能であったとしても、終わりのない

経済成長が不可能であることは誰が考えても明かだと思います。しかしながら、現在の社会システムにおいて経済成長を止める政策を実施すると社会システムが不安定となり、社会が崩壊してしまうかもしれないことから、持続不可能であることが分かっているにもかかわらず経済成長を目標とせざるを得ないというジレンマに陥っているのが現状だと思います。

現在、成長の指標として国内総生産(GDP)が用いられていますが、GDPを指標として用いることに問題があることは多くの経済学者も認めており、社会の進歩の指標としてGDPを用いることは明らかに限界があります。もちろん、GDPに代わる社会作りの指標としていろいろな指標が開発されています。例えば、ブータン政府が国作りの指標として用いている国民総幸福(GNH)、地球環境の持続可能性に考慮してハーマン・デイリーらによって開発された持続可能な経済厚生指標/真の進歩指標(ISEW/GPI)、国連開発計画が毎年発表している人間開発指数(HDI)、生活満足度と平均余命の乗数をエコロジカル・フットプリントで除して算

出される地球幸福指数(HPI)、社会、環境、経済の指標を取り込んで算出されている人間満足度尺度(HSM)などの指標があげられます。これらの指標を社会作りの指標として利用することができれば、経済成長一辺倒の社会作りから、人の幸福と地球環境を考慮した社会作りが可能となると思われますが、現状では為政者が使える世界共通の指標はまだできていません。これは、人が幸福だと感じる度合いが、住んでいる地域の環境、文化、宗教、政治システム、人間関係などによって大きく違っていることから、全世界共通の幸せの指標を作成することが難しいからだと思います。

経済が成長し、GDPが増えることが幸せだと思い込んできた(思い込まされてきた)国民に、これからは、違う指標で社会作りをしますと言っても受け入れてもらうことは難しいかもしれません。しかしながら、GDPを発展の指標とした社会作りはもはや不可能だと言うことを、われわれ一般市民も理解しなければならないと思います。

### 井勝 久喜 氏

1956年生まれ

鳥取県出身

- ・吉備国際大学国際環境経営学部・学部長・教授
- ・環境省登録環境カウンセラー(市民部門)
- ・公益財団法人おかやま環境ネットワーク理事

